



# 議会だより

松崎

No.114  
平成29年1月26日

## 《主な内容》

### 第4回定例会 (12月6日～12月7日)

- 一般会計補正予算 他……………2
- 町政を問う 一般質問に4議員……………6
- 議員研修報告 (常任委員会視察・賀茂郡議員研修会) ……10

一年の安全と豊漁を願って

平成29年1月2日 乗り初め行事 (雲見海岸)



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

# 平成28年12月定例会

平成28年第4回定例会が12月6日から2日間にわたり開催されました。条例改正3件、規約変更2件、補正予算4件、人事案件3件、その他2件、議員発議の「松崎町議会議員政治倫理条例の制定について」が上程されました。審議の結果、議員発議は否決され、それ以外は原案のとおり可決されました。

## 一般会計

臨時福祉給付金事業や小学校給水配管改良工事などの増額、財政調整基金への積立などにより、歳入歳出にそれぞれ1億4022万4千円を増額して、補正後の予算額を40億9310万7千円（3・6%増）とした。

### 臨時福祉給付金とは

平成26年4月に実施した消費税率引上げによる影響を緩和するため、住民税が非課税の方に対して、制度的な対応を行うまでの臨時的措置として実施する。

◆対象者1人につき、1万5千円

※詳しくは健康福祉課（42-3966）

**問** ドクターヘリ格納庫

整備事業費補助金が73万3千円減額されているが、格納庫はすでに完成したのか。また格納庫整備に伴い、順天堂大学医学部附属静岡病院（伊豆の国市）の屋上にあるヘリポートは、今後、どうなるのか。

**答** 健康福祉課長 今回

の補助金減額は、事業費精査によるもので、伊豆の国市（旧スポーツワールド跡地）に整備されるドクターヘリ格納庫は、年度内の完成を目指して進められている。

なお、順天堂大学医学部附属静岡病院の屋上にあるヘリポートは、格納庫が整備された後もそのまま使用される。



建設が進む西伊豆消防署新庁舎  
（西伊豆町中地区）

**問** 下田地区消防組合の負担金が72万6千円増額されているが、これは、現在、西伊豆町に建設されている西伊豆消防署の新庁舎工事のための負担金か。

**答** 総務課長 新庁舎の

建設のための増額ではない。下田地区消防組合では、新たに女性隊員が入った関係で、仮眠室などの整備が必要となり、その分の経費を各市町がそれぞれを負担割合で支出することになったため、負担金を増額する。

## 国民健康保険 特別会計



高額療養費の実績見込み増などにより、歳入歳出にそれぞれ2402万8千円を増額して、補正後の予算額を13億1121万2千円（1・9%増）とした。

**問** 高額療養費がかなり

増えているようだが、主な病名は何か。

**答** 健康福祉課長 高額

な医療費の内訳を見ると、件数では昨年度より18件の増、金額では2400万円程増えている。主なものでは順天堂静岡病院が8件、県立がんセンターが6件、中伊豆温泉病院が5件と続き、がんや脳血管疾患、心臓疾患などが主なものとなっている。



12月定例会の様子

**問** 保険税軽減世帯の増加などにより、国民健康保険税の収入は減少傾向にある。今後、こうした傾向は国民健康保険税に何らかの影響を与える可能性はあるか。

**答** 健康福祉課長 被保

険者が減れば、当然、保険税への影響が出てくる。平成30年度からの制度改正で静岡県と市町が共同で国民健康保険の運営を行うことになるが、その中でも考慮されるものと考えている。

介護保険  
特別会計

地域密着型サービスなど介護保険給付費の増加により、歳入歳出にそれぞれ4694万4千円を増額して、補正後の予算額を8億8418万6千円(5・6%増)とした。

地域密着型サービスとは介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で暮らしていけるよう、町指定の事業者が地域住民に提供するサービスのこと。  
町では、デイサービスセンター・松崎、デイサービス・オリーブハウスの2つの事業所と西伊豆町内の4事業所を指定している。

**問** 高齢化が進む中で、介護保険給付費はますます増え、それに対する町の負担も大きくなっていく。今後、この制度を維持していくためにどのような考えを持っているのか。

**答** 健康福祉課長 介護保険については、保険料の見直しは3年毎に行われている。平成30年度から新しい保険料が適用されるので、来年度において、今後の見通しを含めた中で内容を検討していく。

温泉事業会計

収益的支出予算において、電力のインバータ化による動力費の支出見込み減などにより、125万1千円減額したため、当年度純利益を102万9千円増とした。

また資本的収入及び資本的支出において、桜田坊ヶ谷急傾斜地崩壊対策工事(県工事)による温泉本管布設替工事に伴い、県からの繰入金80万円と建設改良費300万円を増額した。

**問** 温泉本管布設替工事費300万円が計上されているが、県からは80万

円しかもらえず、残金の220万円は町の持ち出しとなる。本来、県の急傾斜地崩壊対策工事により温泉本管布設替工事を行うのだから、その費用はすべて県が負担すべきではないか。

**答** 生活環境課長 この工事は、県の補償工事に該当するため、県の補償算定基準により、今回の補償額80万円が算出された。この算定基準では、布設替前の温泉管の減耗分を控除した残価分が補償額となる。しかし、この額は確定ではないので、今後とも引き続き、県へと申し入れをしていく。



その他

◎東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町及び西伊豆町における指導主事の共同設置

賀茂郡内5町において、学校教育における指導主事3人を共同で設置するために必要な規約を制定するもので、賛成多数で可決された。

専門的立場で教職員や学校に助言や指導を行う指導主事は、現在、県から賀茂郡5町にそれぞれ1人ずつ派遣されている。しかし、本年度限りで県からの派遣が終了するため、平成29年度から賀茂郡5町で指導主事を共同で設置することとなった。

◎教育委員会教育長の任命

平成28年12月17日で任期満了となる山本正子教育長の後任に、佐藤勝徳氏(指川・63歳)を教育長に任命することに対し

て同意した。

◎教育委員会委員の任命

平成28年12月31日で任期満了となる梅木左緒里氏の後任に、齋藤紀子氏(伏倉・36歳)を新たな委員に任命することに対して同意した。

◎人権擁護委員候補者の推薦

平成29年1月1日より就任する予定だった佐藤勝徳氏が都合により辞退したため、齋藤公志郎氏(道部・63歳)を推薦することに對して適任と答申した。

◎平成28年度松崎町立幼稚園遊具売買契約

現在、旧岩科小で建設中の松崎幼稚園に設置する遊具を購入するもので、全会一致で可決された。

【契約金額】

722万5200円

【請負業者】

(株)スルガ(沼津市)

## 議会議員政治倫理条例案を否決

### ◎松崎町議会議員政治倫理条例の制定

議員提出議案（提出者 長嶋精一議員、賛同者1人）による松崎町議会議員政治倫理条例案は、賛成少数により否決された。

#### 提案理由

政務活動費の不祥事は、全国的にも大きな問題となっており、今や地方議員の信用は地に堕ちていると言っても過言ではない。当町には政務活動費がないが、これを機会に自分をただして議会の自浄作用を促していくということが喫緊の課題であると思ひ、提案するもの。

この条例案では、議員が政治倫理基準（地位を利用しての金品授受などその職務に関し、不正疑惑を持たれる恐れのある5つの基準）に違反する

どうなるのか。

**答** 提出者 議員本人が税等納付状況報告書の提出に同意しないのなら、それは仕方がないと考えられている。

**問** 確たる証拠がないにも関わらず、疑いだけで本条例を適用されると、議員同士が疑心暗鬼になるのではないか。

**答** 提出者 あくまでも証拠があったらという条件付きである。

### ×：反対討論

地方自治法には、調査権があつて議員の動議や発議ができ、町民には議員の動きに問題があれば解職を請求する権利が与えられている。本条例案は、個人情報保護法との関係で問題があることや、議員同士が疑心暗鬼となりかねなく、開かれたまちづくりを阻害する要因になると考え、反対する。

### ×：反対討論

議員本人の同意によってしか成り立たない不備のある条例を認めるわけにはいかないので反対する。ただし、提出者が提出した意義は認める。

### ○：賛成討論

この議会が、議員の資質を問うたり、町民に背を向けない立派な議員になってほしいという提出者の意思を汲み取って賛成する。

## 第5回臨時会

11月21日（月）、第5回臨時会が招集され、当局から提出された次の議案について、慎重な審議を行い、いずれも全会一致で原案のとおり可決された。

◎平成28年度松崎町一般会計補正予算（第3号）

旧中川小学校プールを解体する費用4100万円を増額補正するもの。

◎平成28年度（平成27年度繰越）社会資本整備総合交付金松崎町水道橋架替工事請負契約

築85年が経過し、塩害による被害が顕著となっている水道橋（南区）の架け替え工事を行うもの。

【請負契約額】

5022万円

【請負業者】

（有）国本組（西伊豆町）

第4回・5回臨時会、第4回定例会賛否状況一覧

	件名	議 員					
		伴高志	渡辺文彦	長嶋精一	藤井要	福本栄一郎	佐藤作行
第4回臨時会	松崎町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について	○	○	○	○	○	○
第5回臨時会	平成28年度松崎町一般会計補正予算（第3号）について	○	○	○	○	○	○
	平成28年度（平成27年度繰越）社会資本整備総合交付金松崎町水道橋架替工事請負契約について	○	○	○	○	○	○
第4回定例会	松崎町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○
	松崎町税条例等の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○
	松崎町国民健康保険税条例の一部を変更する条例について	○	○	○	○	○	○
	静岡県市町総合事務組合理約の一部を変更する規約について	○	○	○	○	○	○
	賀茂地域の広域連携に係る連携協約の変更について	×	○	○	○	○	○
	東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町及び西伊豆町における指導主事の共同設置について	×	○	○	○	○	○
	平成28年度松崎町一般会計補正予算（第4号）について	○	○	○	○	○	○
	平成28年度松崎町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○
	平成28年度松崎町介護保険特別会計補正予算（第3号）について	×	○	○	○	○	○
	平成28年度松崎町温泉事業会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○
	平成28年度松崎町立幼稚園遊具売買契約について	○	○	○	○	○	○
	教育委員会教育長の任命について	無記名投票 賛成4：反対3					
	教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○
	人権擁護委員候補者の推薦について	○	○	○	○	○	○
松崎町議会議員政治倫理条例の制定について	×	×	○	×	×	×	

○：賛成 ×：反対

# 町政を問う

問

29年度重点施策は何か

答

防災強化と新拠点作り



藤井 要 議員

**問** 平成29年度は齋藤町政の最終年度である。水門や防潮堤建設、人口減少対策など課題山積の中での重点施策は何か。

**答** (町長)

「平成の花とロマンのふる里づくり」を基本理念として、那賀川河口水門や防潮堤の整備、避難路の充実などの地域防災力の強化に取り組んでいくとともに旧依田邸と三聖苑を中心とした新たな拠点作りに取り組んでいく。

**問** 齋藤町政7年の中で感じた町の課題と、未来に向けて松崎が永続していくための提言は何か。

**答** (町長)

課題は人口減少で、働く場所の減少という問題が背景にある。これを解消するには、町民一人ひとりが進んでまちづくりに参加し、訪れる方々を迎えることができれば町の魅力が高まり、訪れる方々が増加する。そこで経済が活性化されれば就業人口が増え、人口ピラ

ミッドも是正されていく。住む人が暮らしやすく、訪れる人が増えて活力のある町となるよう、住民と職員が一丸となって取り組む体制づくりが必要と考えている。

**問** ヘリポートの計画は

**答** 防災拠点の一つに

**問** 南郷地区の鮎川基盤整備計画(5ヵ年埋め立て)の中で、災害時用ヘリポート計画が浮上している経緯と今後の利用計画は。

**答** (町長)

学校や役場、医療関係施設での利用を検討したが、現時点で事業費などを考慮すると不可能なため取り止めた経緯がある。そのまま全体を農地として利用することもできるが、後で公共用地を購入することは非効率であり、耕作を止めたい方がいる現状を踏まえ、大型ヘリコプターが離発着できる規模のヘリポートを建設

し、災害時の物資受け入れや重傷者の緊急搬送ができる防災拠点の一つにしたいと考えている。

**問** 旧依田邸の購入は

**答** 購入を協議中

**問** 伊豆学研究会から旧依田邸の購入打診があったが、温泉施設と合わせて町方針は決まったのか。

**答** (町長)

町では、旧依田邸が県指定有形文化財に指定されていることや北海道帯広市との関係が深い重要な建物であること、花の三聖苑と連携し、那賀川を含む一帯を文化的な拠点として活用できることから、現在、所有者と土地・建物などの購入について協議をしている。



購入を検討している旧依田邸 (大沢)



桑葉収穫の様子（伏倉）



長嶋 精一 議員

## 問 くわやの補助金について

## 答 町で応援すべきと判断

**問** くわやに対し、松崎町地域活性化事業支援補助金を交付したが、その使途は何か。

**答（町長）** 施設管理・製品加工に係る人件費や施設の維持管理費、桑畑管理や収穫作業に係る人件費などを対象に補助した。

**問** 使途というのは、何にいくら使うかということ。補助金の原資は税金であり具体的な使途を明らかにすると同時に、必ず領収書を徴求し、それを公開する必要がある。

**答（企画観光課長）** 何に使ったということではなく町長の答弁のとおりに、くわやの申請に応じて補助したということ。補助金を交付したものについては、年度末に実績報告書を出していただくことになっており、そこに添付されている領収書で使途内容を確認させていただくことになる。

**問** くわやの代表者は、町長の実質後援者であり、副町長とも友人関係であると聞く。そのような関係だからこそ、公正にやらなければいけないと思うがどうか。

**答（副町長）** 補助金申請が上がってきたからそのまま取り上げたわけではない。内容を精査し、数字や趣旨の間違いについては審査委員会にかけ前を返して、何回目か上がってきたものを審査委員会で審査し、結果的に町が応援すべき事業だと判断した。補助金の使途についても食糧費や交際費など当団体の構成員が負担したものに補助金を使うことは禁じられているので、その観点からも申請書は検討しており、公正にやったと自負している。

**問** 桜葉の生産体制の進捗状況はどうか。

**答（町長）** 生産者を対象にアンケートを実施したが未記入が多く、十分な情報を得られなかった。引き続き現状把握に努めるとともに、桜葉振興会の体質強化支援や、農協などに農薬や肥料についてのご指導をいただきながら生産体制を強化できるよう支援していく。

**問** 買物支援のため、ジャンボタクシーを巡回させる試みはいいと思うが、どう進んでいるか。

**答（町長）** ジャンボタクシーに参入を計画した事業所があり、これらを活用した試験運行について検討したが新規参入の許可が下りなかった。今後は中部運輸局なども協議し、運行可能な交通手段について検討を重ねていく。

問 若者の転出 町の考えは

答 観光業の活性化 進める



渡辺 文彦 議員

なもののか。

答（町長）

町はいろいろな情報を発信している。今は、個人からの情報や商工会、観光協会からも出ている。松崎町の情報発信は、非常にうまくいっていると思う。それなりに情報発信しているから土・日になるとかなりの観光客がいるし、流行って行列を作っている店もある。

答（総務課長）

十分な実績が出ていない現状も踏まえ、いろいろな方法を変えながら、現状を打破するための取り組みを考えている。

問 町を特徴づける個性は

答 3つの地域資源

問 「日本で最も美しい村」連合フェスティバル

「日本でも最も美しい村」連合フェスティバルにおける県知事の基調講演において、各加盟町村が個性を生かした村づくりを進めることが重要と述べられているが、町を

特徴づける個性とは何か。

答（町長）

連合の設立目的は、「自然環境や景観、歴史、文化など素晴らしい地域資源を持つ町が、自らの町に誇りを持ち将来にわたって美しい町づくりを継続すること、活性化と自立を図ること」であり、

当町が連合に加盟するに当たり「石部の棚田」、「なまこ壁の建造物」、「塩漬の桜葉」を掲げたが、これらはいずれも町を代表する個性的なものである。地域の宝として、住民の皆さんを巻き込んで、守り活用していくことを考えていきたい。



まつざきマイドリーム2016発表会の様子  
(平成28年10月22日 環境センター)

問 10月に開催された「まつざきマイドリーム2016発表会」において、児童・生徒から町に対する夢を語ってもらったが、その中で少子高齢化の原因の一つに、仕事のないことによる若者の転出が指摘されていた。それに対する町長の考えはどうか。

答（町長）

町の基幹産業は観光で、これに第一次産業である農林漁業を組み込み、体験・滞在型、保養型の観光地を目指す。また、観光業を活性化したらどうかとの発言があったが、いかが

問 「まつざきマイドリーム2016発表会」において、松崎の良さをもっと情報発信して観光業を活性化したらどうかとの発言があったが、いかが

光地を目指すところだが、目に見える形が出ていない。松崎町が生き延びるにはこれしかない。役場の役目は、町民がうまく働けるような舞台を作ること、その舞台で町民が活躍してもらうことが望ましい。





新港湾の観光利用は



伴 高志 議員

**問** 休耕田の再生について

**答** 新規参入の促進を図る

**問** 当町の休耕田は毎年どれくらい増えているのか。また町では休耕田を再生するため、どのような対策を考えているのか。

**答** (町長)

休耕田は、平成27年には138畝と平成25年に比べて14畝増加した。原因としては、少子高齢化による農業従事者の減少と、農業に従事してもなかなか所得の上昇に結びつかないことが挙げられる。こうした現状を踏まえ、本年度から農業委員会が農地利用最適化推進委員を委嘱し、遊休農地対策や担い手への農地集積、新規参入の促進などを行うこととした。

**問** 新しい農業の担い手を確保するため、町が農機具を購入、または農家の農機具登録を行って新規就農者に貸し出す考えはないか。

**答** (町長)

農機具などは使用する期間が重複するし、故障

や事故が発生したときのことを考えると役場が関与することが適切か疑問も残る。このため、従来から実施している奨励金制度などを利用していただくことになるが、農業委員、農地利用最適化推進委員などの方々に、不要となった農機具の情報を求めることも一つの解決策になるかと思う。

**問** 防災計画の改善は

**答** 毎年3月に改訂

**問** 本年4月に発生した熊本地震の教訓を受けて当町の防災計画を改善した点はあるか。

**答** (町長)

当町の防災計画は、毎年3月に改訂しているが、計画やマニュアルは他県と比べれば充実した内容となっている。ただ、実際の場面では、それをいかにスムーズに運用するかが重要となり、対応訓

練を何度も繰り返すことが大切となる。

**問** 新港湾の観光利用は

**答** 県と協議をしていく

**問** 今後、新港湾を町で観光利用する計画は。

**答** (町長)

町では、新港湾が観光面で活用されることを希望しているので、観光協会のジオサイトクルーズ企画や、試験的に防波堤での釣り大会などに期待をしているが、十分な成果が得られていない。今後も新港湾の管理者である県とも相談しながら利用が増えるように協議していく。

常任委員会視察研修

常任委員会では、10月12日から3日間にわたり、群馬県の富岡市および上野村におけるまちづくりの取り組みを視察しました。

世界文化遺産のまちづくりから学ぶ

(群馬県富岡市)

富岡市は、人口5万人程で群馬県南西部に位置しています。

今回、「ふれあいの居場所づくり」と「世界文化遺産『富岡製糸場』を活かした観光振興の取り組み」の2点について、研修を行いました。

最初の「ふれあいの居場所づくり」では、住民が主体的になって居場所づくりに取り組んでいる様子が伝わってきました。

居場所（公民館や自宅など）とは、いつでも誰でも気軽に立ち寄り、自由な時間を過ごすことができる場所のことで、高齢者の引きこもりや孤独防止、介護予防、認知症

予防などへの効果が期待できるという。現在、市内には18カ所あり、居場所間のネットワークが構築され、さまざまな情報交換が行われています。

なお、行政からの支援は、居場所立ち上げの時点だけで、その後の維持運営費は、段ボールとかの集団回収時における市補助金や参加者からの負担金などで賄っているとのこと。

人口の減少や高齢化という点では、富岡市より当町の方がはるかに深刻であり、今後、当町においても、この居場所づくりも含め、早急に対策を練る必要性を感じました。

人口の減少や高齢化という点では、富岡市より当町の方がはるかに深刻であり、今後、当町においても、この居場所づくりも含め、早急に対策を練る必要性を感じました。

次に「世界文化遺産『富岡製糸場』を活かした観光振興の取り組み」についてお話を伺いました。

富岡市はもともと観光地ではなく、かつては農業経営が主体で、今は工業が基幹産業となつてい

ます。富岡製糸場は昭和62年まで操業され、平成17年に市が保存管理を引き継いだところから、観光に力を入れるようになりました。この頃の見学者数は年間2万人程度でしたが、平成26年に世界文化遺産登録されると見学者数はいつきに年130万人を超え、本年度も

90万人の来場者数を見込んでいるという。こうした有名な観光地となつたわけですが、改めて「世界文化遺産」という名前が及ぼす影響力のすごさに驚かされました。

市では、この富岡製糸場を活かし、観光客を迎えるために交流館や駐車場の整備、道路のカラー舗装化など賑わい創出に取り組んで、住民もまた観光客の安全対策として一方通行など交通規制に協力しています。

この結果、以前の富岡製糸場周辺には空き店舗が目立っていましたが、集客によってすべて空き店舗が解消されたとのこと。ただ最近では、観光客が減少傾向にあり、外国人を対象としたインバウンド対策や満足度向上のためのリピーター対策などが練られているとのことでした。観光客を確保するためには、リピーター対策は不可欠であり、

当町においても他人事ではなく、市の取り組み以上の対策が必要ではないかと思いました。

はなく、市の取り組み以上の対策が必要ではないかと思いました。



富岡製糸場の見学

また、市では景観行政団体となつていて、市内全域において、建築の際、建物の高さや色彩に制限があります。富岡製糸場周辺も特定景観計画区域に指定され、良好な景観が守られています。

このように一定のルールのもと、住民と一緒に住みよいまちづくりを進めており、当町においても自然豊かな素晴らしい景観を後世に伝えていくため、何らかのルール作りが必要ではないかと感じた研修でした。



視察研修の様子（富岡市役所）

森林資源の地産地消の現状を探る  
(群馬県上野村)

上野村は、人口1300人程の、群馬県で最も小さい自治体です。

山林がほとんどを占める上野村では、過疎から脱却するために定住対策に力を入れ、定住者が村内で安心して働くことができる雇用場の創出、村営住宅の整備、生活支援などの取り組みが行われてきました。その結果、総人口の18%をイターン者が占めています。

その他、子育て支援や



木質ペレット製造工場の見学

高齢者福祉にもきめ細かな支援が行われていました。

今回の視察は、森林資源の地産地消の取り組みが目的で、木質ペレット製造工場などを見学しました。村では、搬出間伐(不良材)を有効活用するため、間伐材から木質ペレット(おがくずなどを圧縮成型した小型燃料)を製造し、ペレットボイラーを導入した村内の温浴施設でそれを使用するほか、公共施設などにペレットストーブを設置して利用を促進しています。

また、昨年からは木質ペレットをガス化して行う木質バイオマス発電事業も開始し、これによって木材活用が確保され、森林整備の促進や雇用の安定確保に大きな効果が生まれているという。村では、このように森林資源の活用と地産地消を核とした「循環する村内経済の仕組み」の確立を目指しています。

こうした取り組みは、山あいの小さな村だから可能なのかも知れない。しかし、村がこれからも持続して生き残るために編み出された方法であり、こうした循環型社会の構築への取り組みは、いろいろな問題はあっても、いろいろな問題点はあるかもしれないが、当町でも参考にすべき点も多いのではないだろうか。

上野村では、自立する村を目指し、さまざまな取り組みを続けている姿を視察することができて、有意義な研修を行うことができました。



製造工場内と製造された木質ペレット

議会の活性化と賀茂地域の高齢者対策を研修

賀茂郡町議会議員研修会

11月24日、賀茂郡町議会議長会主催による賀茂郡町議会議員研修会が西伊豆町で開催されました。

当日は、賀茂郡内の町議会議員50余名が集い、講師に元全国都道府県議会議長会議事調査部長の野村稔氏と、静岡県賀茂健康福祉センターの高橋安雄所長を招いて研修が行われました。

野村氏は、議事調査部長を務められた豊富な経験から、議会の活性化のために必要なお話をいただき、改めて議員の役割や議会運営の基本を見つめ直す機会となりました。



講師の野村氏

また、高橋所長からは急速に進む賀茂地域の高齢化の現状と課題、そしてその対策として、現在、賀茂地域で進められている地域包括ケアシステムの取り組みについて、お話いただきました。

これは、高齢者が住み慣れた地域で、自立した日常生活を営むことができるよう、医療や介護、住まいなどの支援を一体的に提供する体制づくりのことで、市町が主体となるシステム構築を目指して、現在、賀茂地域広域連携会議の中で協議が進められています。



講師の高橋所長

次の定例会は、  
**3月7日(火)からの予定**です。

## 議会のうごき

### 10月

- 11日 広報編集委員会
- 12・13・14日 総務常任委員会視察研修 (群馬県)
- 17日 静岡県町村議会議長会定期総会 (静岡市)
- 19日 広報編集委員会
- 25日 第4回臨時会・議会全員協議会
- 27日 議会だより113号発行  
賀茂郡町議会議長会議 (松崎町)
- 31日 静岡県町村議会議長会議長県外視察  
(茨城県・栃木県) ~11月2日まで

### 11月

- 7日 静岡県町議会広報研修会 (静岡市)
- 9日 町村議会議長全国大会 (東京都)
- 10日 賀茂郡町議会議長会視察研修 (東京都)
- 21日 第5回臨時会
- 24日 賀茂郡町議会議員研修会 (西伊豆町)
- 28日 議会全員協議会
- 30日 議会運営委員会・広報編集委員会  
下田地区消防組合議会臨時会 (下田市)

### 12月

- 6・7日 第4回定例会
- 22日 伊豆縦貫自動車道西伊豆アクセス道路要望活動
- 26日 西豆衛生プラント組合議会



この人に  
聞きました⑫  
松崎町農業振興会  
会長 齊藤 朋和さん

町内で活動している皆さんを紹介するコーナーです。今回は、松崎町農業振興会の齊藤会長にお話を伺いました。

農業振興会の会長になられて何年が経ちますか。今年度から会長として活動しています。以前に、会員として活動していたので、農業振興会としては4年目になります。

会長に就任してから、農業振興会の運営に対して感じることはありますか。

松崎町は地形的にも、農業の基盤整備をやるといっても面積なり形状があまり良くないので難しく、話がなかなかまとまらない。町の農業を発展させるためには何が良いのか確定的なものがないので、みんな不安を感じていると思う。

行政に対して何か思うことはありますか。確定的なものがないので、町自体がこういう方針で行きますという具体的な方向性を示していただきたい。

町議会に対して、何か要望はありますか。

行政の方々と共に、町の今後の農業に対する考え方、どういう方向性で進めていくのかがいいのを考えていただきたい。  
(聞き手 編集委員長)

#### 発行責任者

議長 稲葉 昭宏

#### 編集委員長

土屋 清武

#### 編集委員

伴 高志 渡辺 文彦  
長嶋 精一 藤井 要  
福本 栄一郎 佐藤 作行

## 海鳴り

最近よく政治の世界で話題になっているのが劇場型政治である。

仮想敵を作り民意を煽って、共に叩くパフォーマンスである。そして大衆に迎合して、注目を集める手法である。その結果、議会が政策論争ではなく、まるで公開処刑の如き個人攻撃までにエスカレートする。最近、こうした流れが地方議会にまで影響する兆しがある。こうなるともう議長のコントロールが及ぶレベルではない。町政の安定を願うなら、もう町民の皆さんの議員個人の資質に対する冷静なる評価に頼るしかない。議会は合議体である。民主主義は、多数決の原理こそが原点である。常に建設的な方向を目指すことが使命であるのは言うまでもない。

(議長)